

平成 22 年度水産試験研究プラザ（地域説明会）の概要について

平成 22 年 9 月 10 日、当稚内水産試験場会議室において、水産試験研究プラザ（地域説明会）を開催しました。この地域説明会（通称、沖底プラザ）は、沖合底曳き網漁業関係者を対象として毎年開催されているもので、沖合底曳き網漁業の対象魚種の資源動向や試験調査船の調査結果などを報告しています。

今年度は、事前アンケート調査における要望に基づき、主要対象魚種であるスケトウダラ、イカナゴ、ホッケの資源動向や調査結果について、それぞれ担当者から説明を行いました。説明会には沖合底曳き網漁業者のほか、稚内機船漁業協同組合、稚内市、宗谷振興局からも参加があり、当场職員も含めると参加者は計 55 名となりました。

説明会での発表内容について、その概略をご紹介します。



【スケトウダラ】（発表者：板谷和彦主査）

調査船北洋丸で 4 月に行った仔稚魚の分布調査から、2010 年級群の分布量は 2005 年以降では 2 番目に高い豊度で、現存量は 2006 年級群の約 4 割と推定された（図 1）。4 月の道北日本海の水温環境は 2006 年のように低めで、春先の水温が低いほど生き残りが良くなる傾向があらためて示された（図 2）。

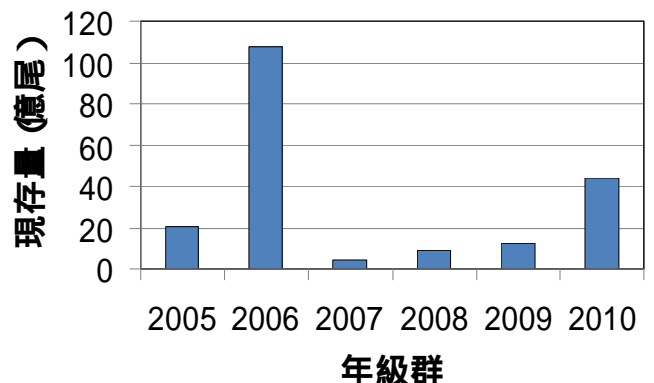


図 1 4 月の仔稚魚分布調査による 0 歳の現存量

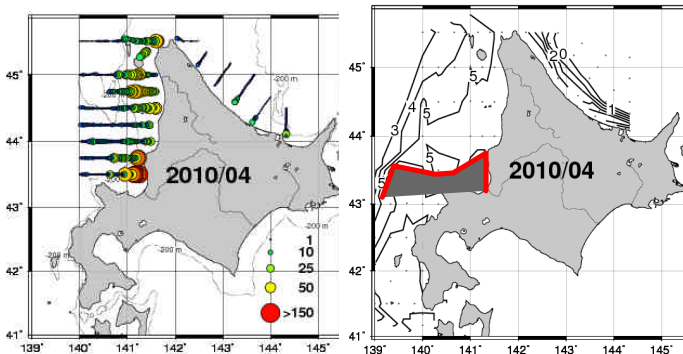


図 2 4 月の仔稚魚の魚探反応分布と水温分布（水深 30 m）

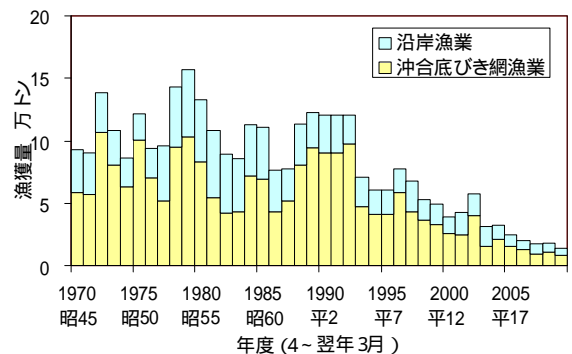


図 3 宗谷海峡周辺海域のイカナゴ類の資源水準

スケトウダラ北部日本海系群の漁獲量は 1993 年度以降漸減傾向にあり、2009 年度は 1 万 4 千トンと過去最低であった。

資源量は 1990 年代後半から減少傾向にあったが、ここ数年は 2006 年級群の加入より減少傾向に歯止めが掛かり、横ばいで推移している。しかし、2009 年度に新規加入した 2007 年級群は、過去最低の資源尾数と推定された。

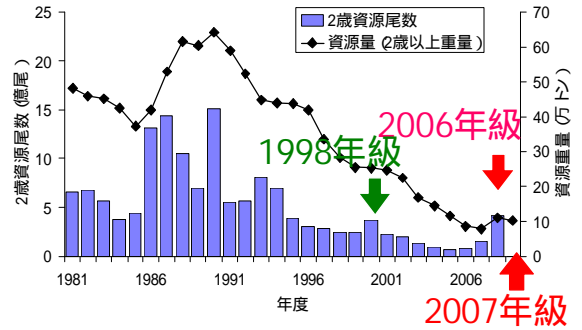


図4 日本海のスケトウダラの資源量と 2 歳の資源尾数の推移 .

【イカナゴ類】(発表者：板谷和彦主査)

2010 年 8 月 31 日までの稚内機船漁協の漁獲量は、15.5 千トンと昨年の同時期より 7.2 千トン多く、豊漁だった 2006 年並で推移している。

7 月上旬までの漁期前半は、3 歳以上の大型魚に加え 2 歳魚が比較的多く漁獲され、漁獲量も昨年を上回った。漁期後半は、漁獲主体の 2 歳魚 (2008 年生まれ) に加えて 1 歳魚 (2009 年生まれ) も加入し、かけまわしではまとまった漁獲が継続して昨年を大きく上回った。

2009 年度の CPUE は 10.9 トン/網で、2001 年と並んで過去最低の値で、資源水準は低水準と判断された。

2010 年に稚内港に水揚げされた漁獲物は、2 歳魚が全体の 53% を占め、次いで 1 歳魚が 29% で、3 歳魚が 9% であった (図 5)。漁獲尾数の主体となった 2008 年級群 () は、2004

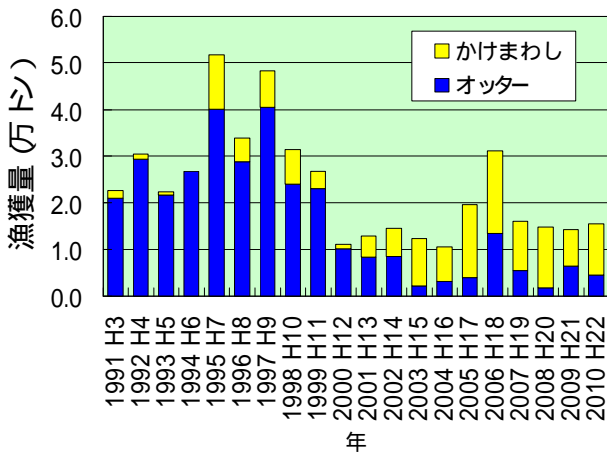


図5 イカナゴ類の漁法別漁獲量 (沖底統計) 2010 年は稚内根拠船のみの集計で、8/31 までの暫定値

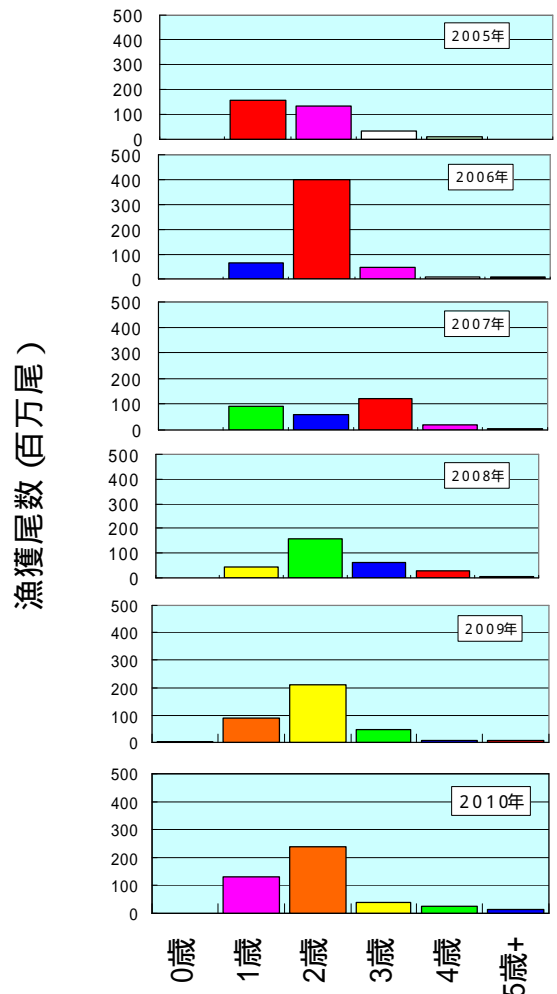


図7 年齢別漁獲尾数 (2010 年は暫定)

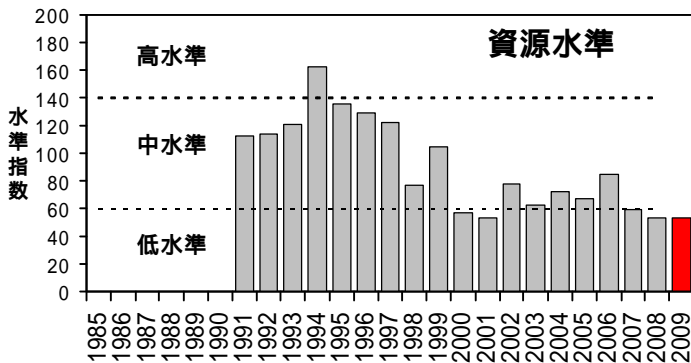


図6 宗谷海峡周辺海域のイカナゴ類の資源水準

年級群 () ほど豊度は高くはなく、現在まで漁獲が継続しているのは、2009 年級群 () の加入が理由と考えられます。

来年度は、2008 年級群 () が 3 歳として漁期前半を支え、漁獲の主体となる 2009 年級群 () も、今漁期の 1 歳での漁獲尾数が平均値以上なので、悪くはないものと予想される。

【ホッケ】(発表者：前田圭司研究参事)

2009 年の道北系ホッケの漁獲量は 2008 年より約 5 万トン減少して、9 万 6 千トンでした。このうち沖底漁業が 7 万 6 千トン、沿岸漁業が 2 万 6 千トンで、それぞれ前年よりも沖底漁業が約 4 万 2 千トン、沿岸漁業が約 6 千トン減少した(図 8)。

2009 年の道北系ホッケの資源尾数は 11 億 7 千万尾と前年から大きく減少し、資源重量も 24 万トンと前年を大きく下まわった(図 9)。資源重量から推定された 2009 年の資源水準指数は 71.6 で、中水準と判断された(図 10)。

資源量結果および 2010 年度の 1 歳魚の漁獲状況から、2009 年級の年級群の資源豊度が低い可能性が高く、今後、漁獲量の減少や産卵親魚量の減少が懸念される。

2010 年 9 月 6~7 日に稚内ノース場において「北洋丸」で実施したトロール網による分布量調査では、曳網 1 海里あたりのローソクボッケ(0 歳魚)の分布量は 5.1kg/N.M.(0~19.3kg/N.M.)と、過去 2 番目に低い値であった(図 11)。しかし、来遊が遅れている可能性もあることから、今後の動向に注意したい。
(稚内水産試験場 研究参事 前田圭司)

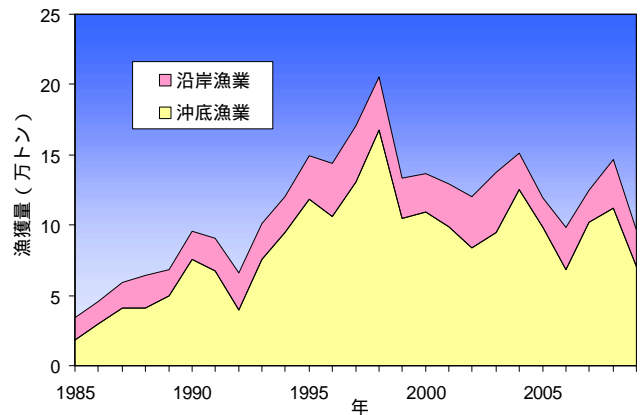


図 8 道北系ホッケの漁獲量の推移

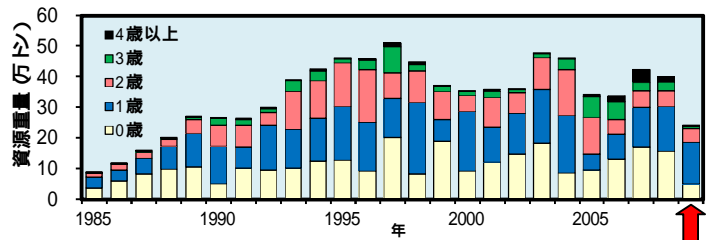
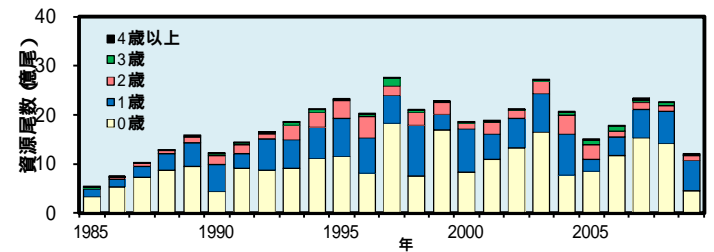


図 9 道北系ホッケの資源量の推移
(上段：資源尾数，下段：資源量)

2009 年級 (0 歳)

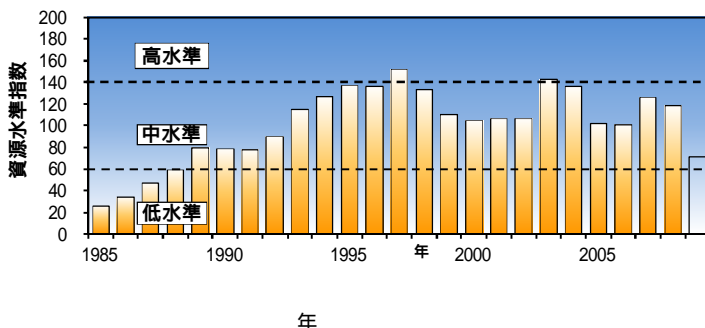


図 10 道北系ホッケの資源水準

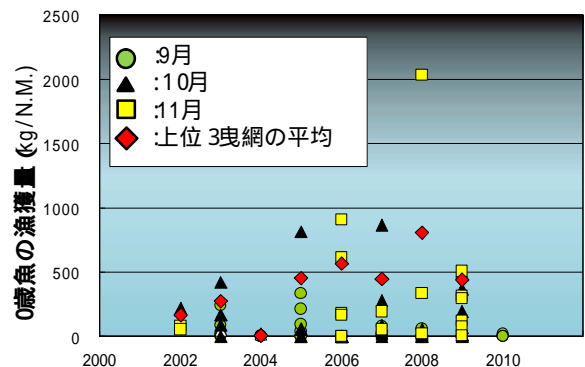


図 11 曳網 1 マイルあたりの 0 歳魚 (ローソクボッケ) の漁獲量